

この特報は、6/3 発行の「もも・ネクタリン特報No.⑥」の薬剤散布（散布目安は、6/18～24 頃）が終わってから行なう防除を掲載しています。特報No.⑥の内容を再度、ご確認ください。

注意事項（もも・ネク共通）

- ・ナリアWDGを混用する際は、SSの薬剤投入口の「こし網（フィルター）」を外し、さらさら投入する。（または、別容器を用意し、5ℓ程度の水で先に薬剤を溶かしてから投入する。）
*薬剤の特性上、「こし網」に直接投入すると、網に薬剤が付着しうまく溶けない場合があります。
- ・ナリアWDGは、ぶどう（ピオーネ・サニールージュ）、西洋梨ル・レクチェに薬害を生じる恐れがあるので、飛散しないよう注意する。
- ・劇マークの農薬は、「劇物」です。ご購入の際は印鑑をご持参ください。

もも

第8回 定期散布

散布時期	7月上旬（第7回目の定期散布から14日後） ・散布日の目安：7月2日～8日	散布日 7月 日 散布量 リットル
散布薬剤	水 100ℓ当り 展着剤（ハイテンパワー） 10ml ナリアWDG 50g（収穫前日まで、2回以内） 劇イカズチWDG 66g（収穫前日まで、5回以内）	
散布量	10アール当り 600ℓ	
混用順	水 ⇒ 展着剤 ⇒ ナリアWDG ⇒ イカズチWDG	
対象病害虫	黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類	

【注意事項】 ハダニ類 発生園は、コロマイト乳剤の1,000倍（収穫7日前まで、1回以内）を加用する。
晩生～極晩生種で、せん孔細菌病発生園は、マイコシールドの1,500倍（収穫21日前、5回以内）を加用する。

ネクタリン

第8回 定期散布

散布時期	7月上旬（第7回目の定期散布から14日後） ・散布日の目安：7月2日～8日	散布日 7月 日 散布量 リットル
散布薬剤	水 100ℓ当り 展着剤（ハイテンパワー） 10ml ナリアWDG 50g（収穫前日まで、2回以内） 劇イカズチWDG 66g（収穫前日まで、2回以内）	
散布量	10アール当り 600ℓ	
混用順	水 ⇒ 展着剤 ⇒ ナリアWDG ⇒ イカズチWDG	
対象病害虫	黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類	

【注意事項】 ハダニ類 発生園は、コロマイト乳剤の1,000倍（収穫7日前まで、1回以内）を加用する。

次ページもご覧ください。

袋掛けについて

1、袋掛けの目的

- ・肌荒れ、裂果防止・・・日光の直射や風雨によって果面に肌荒れ・サビ・ヒビが生じ、また、成熟前の降雨によって裂果が発生するため、袋掛けによって果面を保護する。
- ・着色促進・・・着色しにくい品種は、袋掛けによって着色が向上する。また、鮮明な着色に仕上がる。
- ・病虫害対策・・・降雨による「腐敗性病害」や「せん孔細菌病」の感染予防。野蛾、カメムシ類の吸汁害予防。
- ・適正着果・・・袋掛けを行うことにより、使用した枚数で着果量を把握できるため、適正な着果管理ができる。

2、袋掛け品種（主要品種）

なつっこ、川中島白桃、黄金桃、幸茜、さくら、白根白桃、ゴールドンピーチ、ネクタリンなど。

*上記以外でも、正品率および秀品率向上のため積極的に袋掛けを実施して下さい。

3、袋掛け時期

袋掛けは、生理落果の恐れがなくなり仕上げ摘果が終了したら、順次実施する。（概ね満開後 50～60 日頃から実施する。）

注意事項

- ・袋掛けが早すぎると、果実肥大が悪くなったり、生理落果を生じたりする場合があります。
- ・袋掛けが遅すぎると、肌荒れやヒビ等が発生し正品率が低下するため、早生品種は6月末までに、中生～極晩生種は7月中旬までに袋掛けを終了する。
- ・黄金桃などの品種で、せん孔細菌病多発園は、果実病斑を確認しながら仕上げ摘果・袋掛けを実施する。

4、袋の種類（詳細については、園芸課・担当技術員にお問い合わせ下さい）

*各種サイズ、V切も取り扱っております。

対象品種		商品名	単価(円/枚)	特性
白鳳系・あかつきなつっこ・白桃系 川中島白桃・白根白桃 他	1重袋	新聞黒-10切 (I切)	2.03	・遮光率 97.60%、透気度が良い。
		KMP-8切 (I切)	3.2	・着色増進袋（遮光率 99.25%）
		KM ₂ -8切 (I切)	3.0	・着色増進袋（遮光率 99.80%）
黄金桃など、黄肉品種		KM ₂ -8切 (I切)	3.0	・着色増進袋、無着色栽培兼用（遮光率 99.80%） ・大玉は6切または7切を使用する。
白根白桃、さくら なつっこ、幸茜 川中島白桃	2重袋	Y-ピーチ 22号 TPL ミニ 12V 切	5.9	・遮光 2重袋、外袋のみ除袋。内袋は底なし。 ・除袋後の葉摘みを省くことができる。 ・収穫時まで内紙が残るため、降雨による「こうあ部（果柄周辺）」軟化ロスや、強風による果面のスレを軽減。
		K-ピーチ 22号 TPL ミニ 12I 切	5.7	
ファンタジア・晶光 サマークリスタル 他		ピーチ 2号 (I切)	2.13	・防虫防雨 1重袋
秀峰・和手		ピーチ 22号 S-I 切	5.95	・遮光 2重袋、内袋の丈が長く、降雨による裂果を軽減。 外袋のみ除袋、葉陰等ができてにくい

排水対策・日照量の確保について

6月7日（金）に梅雨入りとなりました。（平年より1日早く、昨年より1日遅い）

本年は、エルニーニョ現象の影響で平年よりも梅雨明けが遅れると予想されております。また、梅雨明け後も降雨と日照不足が心配されます。

●多雨 ⇒ 根腐れ・樹勢低下・糖度不足など悪影響

排水対策 ⇒ 暗渠、明渠

●日照不足 ⇒ 糖度不足・着色不良など悪影響

日照量の確保 ⇒ 硬核期後（7月～）、新梢管理を実施する。骨格枝背面および側枝基部の徒長枝を切除することにより、樹全体・樹冠下への日照量（明るさ）を確保する。樹冠下の相対照度は30%が目安。
*日照不足の年は、樹冠内が「明るい」「暗い」によって糖度の高低に大きく影響します。
*また、樹冠下が暗いと、反射マルチ使用による着色効果が十分に発揮されません。